琉球大学学術リポジトリ

沖縄のイルカ漁

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学理工学部 公開日: 2012-06-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西脇, 昌治, 内田, 詮三, Nishiwaki, Masaharu, Uchida, Senzo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/24618

Bull. Sci. & Eng. Div., Univ. Ryukyus, (Math. & Nat. Sci.) No. 23, 1977.

沖縄のイルカ漁

西脇昌治* 内田詮三**

Dolphin Fishing in the Ryukyus

Masaharu NISHIWAKI and Senzo UCHIDA

Among the islands of the Ryukyus, dolphin driving fishery is operated only on the Nago beach of Okinawa Island. Strange enough, the habit of eating dolphin meat is rarely seen on the other islands. The fishing there has been done not only for profit but a festival related closely to the native religion. Anyone who had helped fishing was given free share of the harvest as a blessing of God.

After a blocade of the new port of Nago was built, dolphin fishing there is not so successful as before. What is worse than that, lately, fishermen sometimes experience during a driving an nuisance approach of leisure boats, on which people come to see the sight for pleasure, and disturb the control of the driving group and caused escape of many dolphins.

Recently, in the waters around Iheya and Izena Islands, some fishermen began to do small scale dolphin catch with hand harpoons sporadically in the need of making up their poor harvest.

Dolphin meat is sold roughly US$ 1.5−2.5 per kg., and the meat is said to be a good medicine for neuralgia.

The number of catch in Nago in the past seventeen years is indicated in Table I. Usually, a little more or less than 100 animals were caught at a time of driving. The number of catch shows decrease since 1971 when the port of Nago was built and the sandy beach was destroied. Season of fishing is show in the same table, fishing is most prosperous in March. In this season, groups of dolphin are migrating to the north.

The monthly water and air temperature in Okinawa is shown in Fig.2.

The species of dolphins caught in Okinawa concentrate on the pilot whale, *Globicephala macrorhyncha.* Animals of *Trusiops spp.* have been caught sporadically, in 1971 *Pseudorca crassidens* were found among a school of pilot whales. In January 1976, a school of *Steno bredanensis* was caught; this is the first record of this specis recognized in Okinawa.

Topographical feature of the coast is that the reef barrier is cut open

* 琉球大学理工学部海洋学科
Dept. of Mar. Sci., & Eng. Div., Univ. of the Ryukyus.
** 国営沖縄海洋博覧会記念公園水族館
Aquarium in the Okinawa Expo Memorial Park.

at that place and 200 meter conter depth of water passage streach to the Nago bay, which leads dolphins to come into the bay. Besides, *Sepioteuthis lessoniana,* a favorite food of dolphins, are living in the depth to invite dolphins.

Fishermen's hooked fish are often pursued and bit by dolphins, species of those mischievous dolphins are likely to be of genus *Tursiops* and *Pseudorca.*

Above explanation was presented at the meeting of Scientific committee of the International Whaling Commission in June 1976.

1．緒　言

琉球列島でイルカを漁獲対象としているのは，名護海岸でのゴンドウクジラ漁（方言でヒート漁という）だけである。他の島々では漁は勿論，イルカ類の食習慣もない。1975年頃から，伊平屋，伊是名近海で，魚類の不漁の時に突棒で捕獲することが初められた。名護のヒート漁がいつ頃から行われ出したのかは不明である。名護の知識人，漁業組合等でもかなり以前から行われていたと言うだけである。

ヒート漁は漁業とゆうよりは伝統的な行事であると考えてもよい。ヒート（小型歯鯨類の総称と思われる）の群が寄ると，「ヒートドーイ」と呼ぶ者が町中をかけめぐり，役所の職員，学校の先生生徒，会議中の議員まで仕事をやめて海岸に走ったといわれる程，祭り的性格を持ている。ユイムン（寄って来たもの）は海の恵みで，手を貸したものは誰でも肉の分け前にあづかった。しかし現在では砂浜は埋立てられ，一般の人々は専ら見物しているだけで手伝うことも出来ないし，肉も無料で分けられず，販賣されるようになった。最近では1kg当り 450円から 750円もする。ヒートの肉はリューマチ，神経痛に良いといわれ，名護における購賣力は盛んである。

終戦直後の食糧不足時代に，大宜味村でイルカ突棒漁が行われたとゆうが，現在ではない。羽地内海にも10年に1回ぐらいの割合でイルカが入り込み，附近の漁民が捕獲するが，名護のように慣れていないので，能率が悪い。1974年3月6日には約 200頭のゴンドウクジラが入ったが，そのうち7頭（中1頭は出生直後であった）しか捕獲されなかった。1968年にも入ったが詳細不明である。

2．漁法および漁具

ヒート漁は一種の追い込み漁であるが，それを専門に出漁するものではなく，沖で一本釣りその他の漁をしていて，ヒートの群を発見すると，かねて用意していた発見旗を立てる。その合図によって何隻かの漁船が集って，海面を竹の棒や木片でたたいたり，石を投げたり，シルシカ（石や金物を重しとして，それに10mぐらいのロープをつけ，そのロープの所々にアダン（*Pandanus tectorius*）の葉や白い布片をつけ，それを船から海中にたらして上下に振り動ごかし，魚等をおどかす漁具）を使用したり，鉄パイプを叩く等の方法で音を出したり，障害物を見せたりして名護湾の方へヒートを追う。このようにして見付けた舟数隻で名護から見えるところまで来ると，30～40隻が出動して浅瀬で手投げ銛を打ったり，喉首を刃物で切って尾ヒレの着け根にロープをかけて砂浜に引き上げたりする。現在名護には約80隻のサバニ（長さ6～8m，1～2トンぐらいの沖縄赤漁船）と16隻の和船（3～5トン）とがある。サバニは

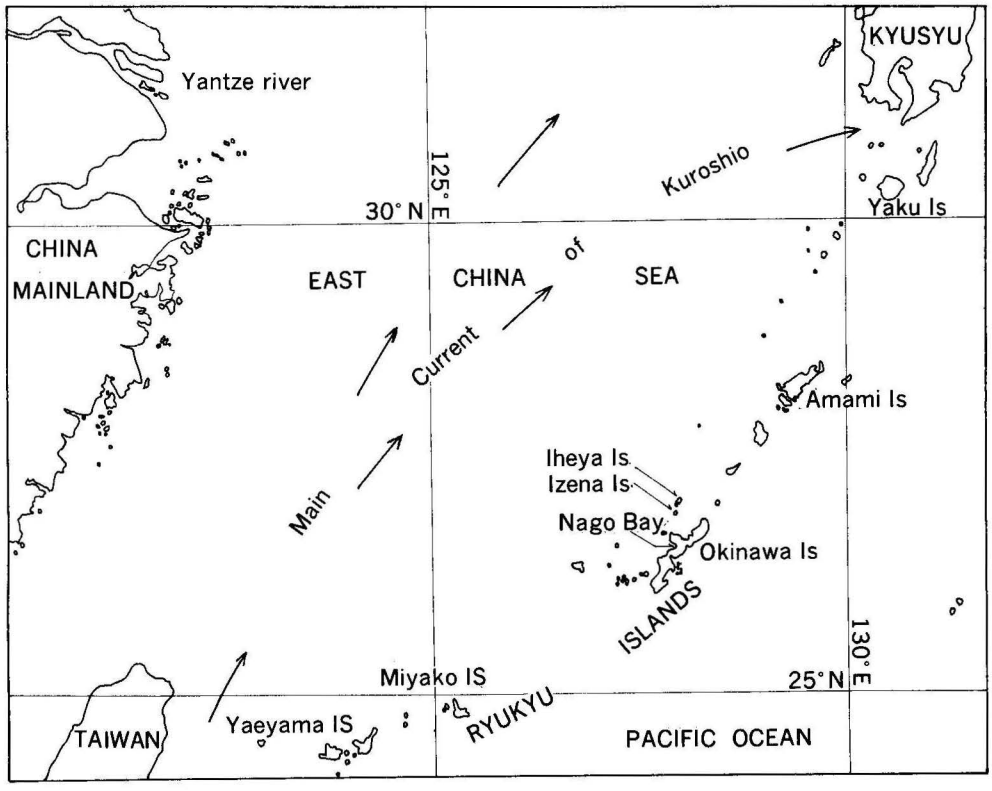

Fig.1 Map of the Kyukyu Islands.

や、不安定なので，二隻を角材で結んで使用したりする。連結用の角材は常に用意されている。最近高速のレジャー用モーターボートが多くなり，勝手に追込み作業を見に来て，捕獲の統制が取れなくなって取り逃がす頭数が多くなっている。現在では護岸築堤が構築されて砂浜がなくなったし，名護港内にはイルカが入り難いので，港近くまで追い込んで来ると各々手近な個体を目掛けて，手投銛を打って捕獲している。

二種類のイルカが混っている場合には，沖合でゴンドウクジラと他の群を引離すようにしている。ゴンドウクジラは船につかないので，突棒による捕獲はかなり難しく，追い込みだけに頼っており，吻のあるイルカ類で艏につくものは手投銛で捕獲しているがその数は少い。

ヒートサバニと称する特製のサバニもあったが現在ではない。

3．捕獲頭数および時期

過去17年間の捕獲頭数は第Ⅰ表に示してある。通常1回の追い込みで 100頭前後が捕獲されている。最高は 270頭であるが，1971年に築堤が完成してからは，一回の捕獲頭数が減少している。これは砂浜がないので追い込んだ群全部を捕獲し難いためであろう。名護港は突堤があり，海水も濁っているため，イルカは港内には入り難い。従って港外で船からの銛打ちだけとなり捕獲能率が悪い。

捕獲時期も第Ⅰ表中に示してある通り，3月が最も多く，4月5月がこれに次ぐ。捕獲回数

頭数ともにこの三ヶ月で全体の85%以上を占めている。捕獲に失敗した例は表中にないが，これも3月から5月に多く，群はこの時期に沖縄に接岸すると考えられる。群の游泳方向は主として南から北に向っている。沖縄における月平均水温と年温を第2図に示したが，ゴンドウクジラの群が接岸する頃は水温が20℃を越え，気温も18°～19℃に上昇する。

Table I Number of dolphin caught accoding to date.

Year	Date		Number of dolphin caught	Total of the year	Remarks
1970	March	5	70		
〃	〃	22	96		
〃	〃	28	77	243	< With some *Tursiops*
1961	〃	16	140		
〃	April	3	141	281	
1962				0	
1963	March	15	189	189	
1964	April	8	150		
〃	〃	25	168	318	
1965				0	
1966				0	
1967	April	3	150	150	
1968	June	29	150	150	
1969	May	1	270		
〃	〃	2	70		
〃	〃	4	60		
〃	〃	6	100	500	
1970				0	
1971	March	22	90		
〃	〃	27	19		< *Globicephala* & *Pseudorca*
〃	April	22	11		
〃	July	22	45	165	< With some *Tursiops*
1972	March	10	56		
〃	〃	13	2		
〃	April	25	112	170	
1973	August	9	87	87	< *Globicephala* & *Tursiops*
1974	March	6	53	53	
1975	〃	8	27		
〃	May	7	22	49	
1976	January	15	23	23	< exclusive ly *Steno*
			Total	2,378	

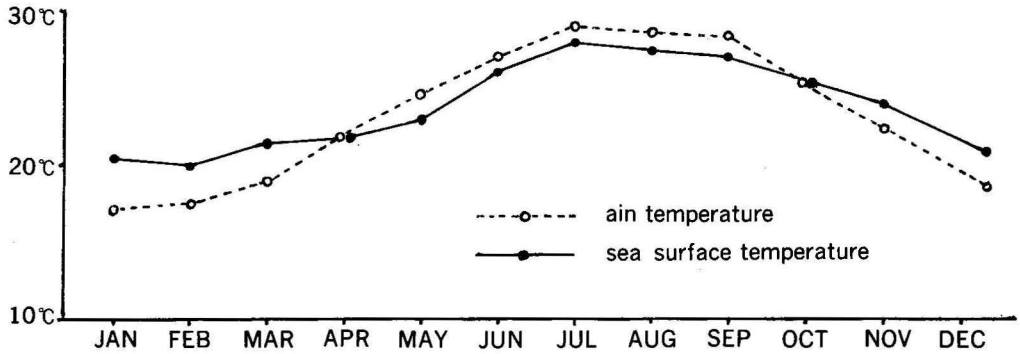

Fig.2 Monthly difference of air and sea surface temperture in Naha, Okinawa.

ヒートの群を発見するのは沖縄海中公園の海中展望塔の辺りが多い。その回りから名護湾を見ると，名護一帯は名護岳と嘉津宇岳にはさまれた平坦地で海峡のように見える。また名護，沖ではリーフが切れて 200mの等深線が湾内に深く入り込んでいる。そこにその時期にはヒートの好物であるシロイカ（アオリイカ）（*Sepioteuthis lessoniana*）が多数発見されている。これがヒートの名護祭りの主原因と思われる。

4．捕獲対象鯨種およびその方言等

対象鯨種は従来ほとんどコビレゴンドウ（*Globicephala macrhyncha*）であった。方言でヒートと言うが，ヒートには小型鯨類は何でも含まれている。ゴンドウクジラ以外の種々はヒートの前に他の名称がついている。

稀にバンドウイルカ（*Tursiops gilli*）又はミナミバンドウイルカ（*Tursiops aduncus*）が混獲されている。しかし種の確認は更に検討を要する。1971年３月にはシャチが混獲されたことになっているが，聞取り調査から判断するとオキゴンドウ（*Pseudorca crassidenns*）を間違って記録したものと思われる。1976年１月沖縄では始めてシワハイルカ（*Steno bredanensis*）だけの一群23頭が捕獲されている。ゴンドウクジラは方言でグンピトとも言う。バンドウイルカはジャカービートと呼んでいる。小型のネズミにジャカーと称される種類があり，すばしこく，且つ人なつこいと言う。このネズミと性質がよく似ているとのことでこの名がつけられている。

リーフのある海岸が多いためか，沖縄の島々の海岸に鯨類がのし上げたり漂着した話は少い。しかし本部町在住の具志堅弘氏の話では，十数年前本部の海岸にコーザアビートという体長５～６m，1,200kg位の鯨がのし上げたそうである。コーザァとは灰白色の意味である。話を総合するとアカボウクジラ（*Ziphius cavirostris*）と推測される。この鯨を食べると下痢をするので，ムイピトとも言うそうである。ムイとはモラス意味だという。

伊是名，伊平屋，辺土岬沖，与論，沖永楽部等へ深海一本釣に出掛ける者は地元以外に名護や本部からも行く。出港の途次イルカ群を見付け，イルカが船につけば手投銛，突棒で捕獲している。そのイルカはガラサァビートと呼ばれ，細長い吻を有し黒い体色からカラスを連想するのでこの名がついている。このカラスイルカは*Delphinus*属か*Stenella*属のものであろうと考えられるが実際に調査する必要がある。このイルカは３月乃至５月に多いことである。本年

5月これ等の属の水揚げがあった。サバニで出漁する漁師は，水を積むのが少ないため，イルカを捕獲することは稀であるそうである。

前述の伊是名等の海域に出漁する漁師は，特に大九曽根などでマチ類(*Etelis spp.*)フエダイ(*Lutjanus sp.*)チビキ(*Erythrocles schlegeli*)アジ類(*Decapterus sp.*)等を一本釣で漁獲する。その時サメ害の他にかなりイルカ類による食害があると言われる。釣り上げつつある魚を食うのは*Tursiops*属又は*Pseudorca*属のものと思われる。本部町の具志堅弘氏は，漁の邪魔をするイルカを生きているサバ(*Scomber japonicus*)で釣った事があるそうである。種は不明であるが，600kg位の体重であった等の口述からオキゴンドウ(*Pseudorca crassidens*)であろうと推測される。

5．結　語

1)琉球列島の中で沖縄本島の名護湾だけにヒート漁と称される追い込み漁業がある。1971年に名護港が出来，砂浜が埋立られてからは，港口まで追い込んで来るが，ヒートがのし上げる浜がなく，突棒で捕殺しているので逃がす率が多い。肉は450円～750円で販賣されている。

2)ヒートとはゴンドウクジラを主とするイルカ類の総称で，コビレゴンドウ(*Globicephala macrorhyncha*)，バンドウイルカ類(*Tursiops gilli and Tursiops aduncus*)，オキゴンドウ(*Pseudorca crassidens*)等である。漁船の艏につく種類，マイルカ類(*Delphinus spp.*)やスジイルカ類(*Stenella spp.*)は突棒で捕獲されているがその数は少い。本年始めてシワハハイルカ(*Steno bredanensis*)が捕獲された。

3)それぞれの種について水産資源的計算を行うにはあまりに捕獲頭数が少い。捕獲が少い事は沖縄のイルカ漁が彼等の生息数に及ぼす影響は今のところ極めて少いと考えられる。

6．謝　辞

本報文には沖縄方言（ウチナーグチ）を紹介したいため，主文は和文を用いた。しかし方言に対して自信がなかったので，名護出身の当学科比嘉辰雄助教授に御校閲をお願いした。また本部町在住の具志堅　弘氏からは色々な捕獲情況の御説明を得た。ここに深甚な謝意を呈する。

7．参考文献

Mitchell, E. 1974: Review of Biology and Fisheries for Smaller Cetaceans. Jour. Fish. Res. Board Canada。: 875-1240.

———. 1975Porpoise, Dolphin and Small Whale Fisheries of the World. IUCN: 129PP.

西脇昌治. 1965：マイルカ科，鯨類鰭脚類。東京大学出版会：159-225.

———. 1965：ゴンドウクジラ科，鯨類鰭脚類。東京大学出版会：254-284.